新たな「公共圏」モデルの構築

研究代表者　渡　邊　　登

1．分担者

芳　井　研　一
松　本　　彰
佐　藤　康　行
中　村　　潔
松　井　克　浩
古　賀　　豊
杉　原　名穂子
中　村　隆　志
北　村　順　生

2．協力者・所属

3．2007年度の研究活動の概要，及び，2007年度の研究成果の概要

本研究プロジェクトは，高度情報化，メディアテクノロジーのグローバルな拡大という条件のもとで，現実の地域社会におけるコミュニケーションが多層的・複合的な「公共圏」形成に結びつくという事態の解明を目指している。

本年度も昨年度に引き続いて研究メンバーそれぞれが個々の専門領域から具体的なフィールドへのアプローチによる調査研究を行った。

例えば，ローカルメディアが公共圏構築に果たす役割への解明に向けて，スハルト退陣後のプレス自由化の進展のなかで発刊され始めた地方紙についての調査の継続的調査研究（インドネシア共和国，バリ州，デンパサール市）や，韓国の地域社会（全羅北道扶安郡）における地域づくりの事例研究（放射性廃

棄物処理場建設反対運動を契機とした地域文化創造の事例），東北タイ農村の住民組織活動調査（ソーシャルキャピタルの観点からその可能性を検討），また中越震災後の地域社会復興の諸条件を探る調査研究等を挙げることが出来る。以上の調査は韓国調査を除いては著書，報告書として成果を発表している（４）研究成果の一覧を参照のこと）。

以上の調査は，いずれも東アジアに関するケーススタディであるが，こちらの研究に関係して，鐘家新氏（明治大学政治経済学部教授）を発表者として「現代中国における格差について」と題して研究会を2007年９月６日に開催して，意見交換を行った。

これらの調査研究に加えて，市民社会の歴史的形成過程の研究にも取り組み，その成果を報告，論文の形で整理しつつある。

４．2007年度の研究成果の一覧

図書

・松井克浩，2007『ヴェーバー社会理論のダイナミクス ―「諒解」概念による『経済と社会』の再検討』未來社。

・松井克浩，2008『中越地震の記憶 ― 人の絆と復興への道』高志書院。

論文

・松本　彰，2007,「音楽祭」，徳丸吉彦/高橋悠治/北中正和/渡辺裕編『世界音楽の本』　岩波書店，188-191.

・松本　彰，2007「市民社会と国民国家，そして戦争」『Quadrante クァドランテ　地域・文化・位置のための総合雑誌（東京外国語大学海外事情研究所）』No.10，113-127.

調査報告書

・松井克浩編，2007『「復興」の現状と課題 ― 三年後の中越地震被災地・小千谷から』新潟県小千谷市消費者協会・新潟大学人文学部松井研究室。

・新潟県消費者協会編，2008『新潟県中越沖地震 体験は活かされたか ―

「中越沖地震後の生活についてのアンケート」調査報告書』新潟県消費者協会・新潟大学人文学部松井研究室。

・中村潔『「伝統」の言説：バリ地方紙の文化人類学的研究』（平成17年度～平成19年度科学研究費補助金（基盤（C））研究成果報告書）［課題番号17520554］

・Yasuyuki Sato「The Thai Villager Organization from the Perspective of Social Capital」pp.66-74. 鈴木規之編『東北タイの開発と市民社会の基盤となるプラチャーコム（住民による小グループ）』（平成17年度～19年度科学研究費補助金（基盤（B）研究成果報告書）所収，2008年３月。［課題番号17402031］

報告

・松本　彰「19世紀ドイツの合唱運動における B & uuml;rger, Nation, Volk」国際シンポジウム「市民と市民社会を問う ― 過去・現在・未来 ― 日独比較研究の視点から」【主催】独立行政法人日本学術振興会　日独共同大学院プログラム（東京大学＝ハレ大学），東京大学ドイツ・ヨーロッパ研究センター（DESK）（2008年３月19日東京大学）

・渡辺　登,「政策決定過程に対して住民投票の持つ意味と可能性 ― 日韓の問題解決行動の比較を通じて ―」2007年度日本選挙学会総会・研究会（2007年５月20日神戸大学）